

女子高校生の運動部活動における顧問との信頼関係について

塩田 美菜子(生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード：運動部活動、顧問、信頼

1. 緒言

小学校では、学級担任が全教科の学習指導にあたることから、その児童たちは学級担任の影響を大きくうけると言われている。しかし、中学生以降になると、教科担任制へと変わるとともに、部活動も加わり、クラス担任以上に部活の顧問との関わりも増えてくると思われる。

中谷ら(2005)の研究によると、生徒と教師との信頼関係については、学校外の働きかけとして家庭との連携が重要である。学校内においては、担任や教科担任などのチーム体制による連携が、生徒と教師との信頼関係を築く上で、重要であることが示された。また生徒への働きかけについては1対1で話をする、本音を語れる雰囲気作りが重要であることが明らかにされた(中谷他、2005)。このように、学校での教師の働きかけは生徒との「信頼感」の形成に大きな影響を及ぼしていることが予想される。

そこで、本研究では女子高校生の運動部活動に着目し、顧問との信頼関係について検討することを目的とした。

2. 研究方法

実施日は、11月7日(月)～11月14日(月)であり、京都私立B高等学校の運動部活動を対象とした。その際、ソフトテニス12名、バレーボール7名、バスケットボール6名、柔道7名、ソフトボール11名の5団体に

チーム心理診断テスト(勝俣他、2009)のアンケートをとり、KJ法を用いて分類した。

1) チーム心理診断テストアンケート

チーム心理診断テストアンケートは、①チーム有能感②コーチ信頼感③対メンバー関係④正確性の4つの項目に分けられ、チームスポーツにおけるメンバーの心理状態を測定する目的で作成されたテストである(勝俣他、2009)。

2) KJ法

KJ法は、1回目に4回生5人で行い、2回目に3回生8名で、顧問との信頼感11項目を、グループごとにまとめて分類し、項目ごとにタイトルをつけ、まとめる。

3. 結果と考察

顧問との信頼関係を築き上げていくには、「指導者・指導」と「顧問の人間性とチーム運営」が主体となる。顧問と生徒の間に「信頼」が形成され、「練習の取り組み」として関わり、顧問への信頼に深く繋がっていくことが明らかにされた。顧問の信頼関係を高めることで、チームの技術や成績も上がり、チーム関係も良くなるといえる。

4. まとめ

顧問と生徒の信頼関係が重要となることが明らかにされた。このことから、女子運動部活動の顧問になった時、信頼関係を築くためには、指導力だけでなくさまざまな面から生徒と関わる必要があることが示唆された。